2018年6月16日

老子会会報

老子会　主催
第008号

老子会のモットー

「老子の道（タォ）の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

坂本龍馬の名言：「世の人は我を何とも言わば言え　我なす事は我のみぞ知る」

坂本龍馬が遺した言葉のなかでもっとも有名な句だ。

暗殺された龍馬には、正確な意味での辞世の句はないが、この一句は波瀾万丈の生きざまを見事に言い表している。

この句を声に出して詠むだけで、龍馬の威風堂々たる立ち姿が脳裏に浮かびあがってくるようだ。

「人がわかってくれなくても、自分がわかっていればそれでいいのだ」

一見すると無責任で利己的な生き方を礼賛するように読めるが、決してそうではない。

それは龍馬の生涯をたどればわかる。日本という国を想い、日本を洗濯するために仕事をした37年の人生は、利他の精神に充ちていた。

利他であるからこそ、人の評価などどうでもよくなるのだ。

逆に考えると、心のどこかで人の評価を気にしてしまい、自分への悪評に感情的な反応を示してしまうならば、その生き方はいまだ利己の域を脱していないということだ。

もちろん、そもそも論として、自分の行動が利他か利己かという評価はとても微妙な問題である。

自分では利己的な行為のつもりが、知らぬうちに誰かを助けていた、なんてこともあるだろう。

自分では利他的な行為のつもりが、ある人にとっては「ありがた迷惑」だったり、傍目には売名や名誉欲を満たすための行動にしか見えないこともあるだろう。

そもそも、「利己で何が悪い」という考え方だってある。

たしかなことは、「一つの行動が正しいか間違いか、良いか悪いかという判断ほど、人により、また時代によってくるくると入れ替わるものはない」ということだ。これこそが老子思想で、価値観の多様化だ。

おそらく龍馬はそれを悟っていたのではないか。

だからこそ「我なす事は我のみぞ知る」と、自分の信じる道をまっすぐ駆け抜けることができたのだ。

自分が良しと考える判断に基づいて行動し、その責任を取る。その繰り返しが人生であるならば、龍馬にとっての責任は「自らの死」であった。

いろいろと悔いはあっただろうが、しかし、絶命の間際、自分を信じて生き抜いた生涯を誇りに感じたのではないかと筆者は勝手に想像している。

信念に殉ずる生きざまに、人は惚れるのである。老子会の魅力でもある。

坂本龍馬（1836年～1867年）

江戸時代末期の志士、土佐藩郷士。脱藩後は志士として活動し、倒幕、明治維新に大きな影響を与えた。平和の推進者でもある。「剣と恋を織り交ぜたそのドラマチックな生涯は青年たちに果たしない精神の夢を呼びかけている」

（胡金定）

「老子会第50回記念学外研修会　～坂本龍馬の里を訪ねて～」

金　理恵

高知への研修旅行から戻って、坂本龍馬について書かれている書を読み直しております。

それは、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」…ではなく、「お～い竜馬」です。そうです、漫画です。

子供のころから少女漫画も青年漫画も大好きなのですが、本棚のスペースの問題で時々整理をしなければならず、泣く泣く処分せざるをえない時に弟の本棚に移動させました。

幼少から勝気な私は竜馬の姉の乙女に感情移入し、弟に大切な本を譲るから黙って読め！そしてお前も竜馬のような強い男になれ！と、託したのでありました。

弟に高知からのお土産を渡し、ひきかえに全巻を持ち帰り、時間があれば読みふけるという状態です。

さておき、坂本龍馬のファンの私なので今回の研修旅行はとても楽しく有意義なものでした。初日におじゃました司牡丹酒造で戴いた日本酒は、竜馬の生れた高知の空気とともにいただくので格別美味しくついつい何度もおかわりをいただいてしまいました。（ただの酒豪というわけではございません（笑））

その夜はさわち料理の発祥と言われる司さんにて宴会だったのですが、かつおのたたきの美味しさに驚きました。全く臭みがなく、炭焼きの香ばしい香りでまたしてもお酒がすすみました。（ただの酒豪というわけではございません（笑））

あまりの美味しさを忘れられず、後日司さんの姉妹店、梅田駅高架下にある「酔鯨亭」にてまたかつおのたたきをいただきました。

さわち料理は大皿にお造りから揚げ物や煮物、寿司なども盛り合わせており、女性はこの料理を用意して出しておけばあとは食卓でゆっくりとお酒を戴けると伺いました。だから高知の女性はお酒に強くなるんだとか、羨ましい限り。

食後の散策ではりまや橋を見に行ったのですが、「これが？」と驚くほど小さな橋にちょっぴりがっかり。夜食に食べたラーメン屋さんで聞くと現在のはりまや橋はレプリカだそうでまたまたがっかり。さらに大阪に帰ったあとで知ったのですが、はりまや橋は日本3大がっかり名所の第1位だそうです。うん、確かにがっかり！

最終日には高知城と桂浜の龍馬像を見に行きました。龍馬像はJR高知駅前にも武市半平太像と中岡慎太郎像と並んでありますが、桂浜の龍馬像は格別大きくて13.3メートルの巨大さ。坂本龍馬がいかに高知県人に尊敬され愛された日本人であったかがわかりました。

その土地、その場に行って見聞きすること、現地の人と話す機会をもてたことが今回の研修旅行の醍醐味であったかと思います。司牡丹の社名の由来を伺ったり、美味しいさわち料理のいただき方を伺えたり、自分の目で間近で見るからこそ感じることができた感動を味わう機会をいただき、またいつも親切に接してくださる老子会の皆様に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

高知研修感想文

正松本　光紹

今回の高知研修旅行は、楽しみにしてJR大阪駅中央改札に行くと、塚本さんが来ていました。次に古江さんが宿泊して来た言い、トランクケースを引いて来る。話が駅で盛り上がる。阪急高速バス乗り場は分かりにくいので、JR大阪駅中央改札に集合したのが正解だ。

高速バスは中国道を走り、六甲山の裏側を走り、明石大橋から徳島に三好池田は山が高くなり、吉野川パーキングでは雨が降り、心配した。トンネルをたくさん抜けて高知市は予報通り、晴れだった。

高知駅に予定通りに到着した。バスの中は、にぎやかで楽しく、隣の人も親切で良く話してくれて感謝している。

道の旅も市内から郊外に、二期作か、田圃しろかきが、終わっている。佐川は古い町並み保存してある。司牡丹酒蔵は駅から歩いて行け、酒蔵は仕事中で、酒蔵ギャラリーで買い物、試飲をする。黒金ヒロミツさんはこの家の生まれである。青山文庫を見学した。公園にしてある。

龍馬記念館に行く、龍馬の姉と家族の像が有る、近くで龍馬は生まれ、大きな記念館が有る。高知駅から戻り昼食して、予定通りで良い。バスの中も楽しく話し合い、良い旅行だった。来年も参加したい。計画を立てた人、切符を予約してくれた塚本さんに感謝だ。

朝のハイクで歩いた人、迷った時電話で今ローカーに居ると、電話で教えてくれた人、バスの隣の人、楽しい研修が出来たのも老子会に参加した、皆さんのおかげだ。感謝感激、一人旅では味わえない研修旅行だった。ありがとう。

高知駅に帰りに鉄道に乗る。仁淀川の鉄橋を渡る。高知駅から歩いて行ける。便利なところで、部屋も綺麗で風呂もあり嬉しい。知り合いも偶然近くにいて、夕食も高知にぎやかなはりまや橋の近くで、料理は刺身が中心、夜11時でも人が多く、屋台に入って行く。部屋に戻ると疲れを感じた。

朝は6時に散歩する。高知駅前の銅像前で写真を写した。高知城まで行き、階段がきつかった。7時過ぎからホテルで朝食をとり、その後、桂浜に行く。太平洋で島が見えない。黒潮が流れている。大きい龍馬像の前で集合写真を撮る。砂浜は広く水際まで塚本さんと行く。バスの出発時間も待つことなく、バスがはりまや橋に向かう。高知城に行く、朝と2回目となる。ゆっくり余裕で見学できた。

胡先生の老子会に参加を、始めて、50回目を迎えました。

狭間　信行

胡先生の真心のこもる勉強会が、会を重ねる度に大切な人達に、そして、友人の皆さんとなって楽しい気持ちの触れ合いが、広がってきました。

学外研修は、今日までの勉強会で一人一人の皆さんとの交流も深まり、坂本龍馬の里という響きが更に気持ちの中で湧いてきます。「あの時」竜馬達が求めた、新しい時代をどのように自分の人生に、行動として、進むこととして、決意をしたのだろう、と考えたりして、参加しました。

高知駅に着いて、坂本龍馬と最も縁のある司牡丹酒造のある町へ、古い町並みが続き、創業4百年を超える司牡丹酒造に辿り着きました。「船中八策」他、搾りたての酒、2本と酒粕を買って、飛脚「クロネコヤマト便」でわが故郷に送った。

その後、博物館にて、坂本龍馬の「仕事というものは、全部をやってはいけない。八分までいい。八分までが困難の道である。後の二分は誰でもできる。その二分を人にやらせて、完成の功を譲って、しまう。それでなければ大事業とゆう物はできない。世に生を得るには、事を為すにあり。」の言葉に出あいました。

ホテルの会議室で胡先生の講義を聞き、老子の勉強を通じて、時間を重ねてきた出会いの大切さを改めて実感しています。楽しかった学外勉強会。

高松旅行に参加して

塚本保子

高知への旅行で二度目です。桂浜の坂本龍馬の銅像は記憶に新しい。

浜辺の風情、坂本龍馬の右手は懐の中、足元はブーツを履いて、ファションの先駆け、たんなるカッコつけていただけ、それともタダ何気なく・・・？色々と想像が浮かんでくるポーズです。

老子会の勉強、学外学習の企画、胡金定先生に感謝！石井事務局長にも感謝です！！

【高知老子会研修・感想文】

山本　尚美

高知老子会研修に参加させて頂き、有難うございました。高知へは、初めて行きましたので、良い経験となりました。中でも坂本龍馬記念館は、家系図や当時の様子がわかる資料なども見学する事が出来ました。

老子とも関わる地との事でしたので、今後も自分自身で研究してみたいと思いました。

土佐料理のお店「司」は、大阪にもあるとの事でしたが、高知では、女性も一緒にお酒が飲めるように考えたお料理との事でした。桂浜は、景色の良い素敵な浜でしたので、また是非行ってみたいと思います。

三月度「老子会」学外研修―高知市にて、“龍馬の里”を訪ねて！

藤田　憲一

一泊二日のバス旅行。時間的には欲張り過ぎたかな？との感は否めないと思う。そもそも旅行するということは、日常の世界からの脱却で、非日常の姿を再確認する事であると、承知している。たまたま行き交う事や思い掛けない事態に遭遇するといった事も生じることがあると承知しての行動である。

高知市は久方振りの訪問となる。思い起こせば大学の一年生の時、故郷であった高知に学友を訪ねて先輩と同行したのが初訪問であった。母上様との面談が叶ったとはいえ、真に遺憾ながら当の本人とは会えずで、悔しさと無念さが後々まで尾を引いたことを今更ながら苦い経験として心の隅っこに鎮座している。

社会人となり、生地の大阪に戻ることになって、やがてはスパイスの会社の神戸支店の責任者として、各地を回っていた折、再度高知市を訪問する機会を得て、今回食事会を開いた“司　本店”にも訪問した事があった。遠い記憶の底からの呼び出しで様々蘇った次第。そんな感傷に耽る間も無く、慌しい今回の研修会であった。

研修会を終えて

山本　隆敏

今回の高知研修会では、自分が持っている日本の幕末・維新の歴史観を改めて整理できたこと。龍馬の心に向き合えたこと。「文武両道」を「温故知新」すること。仏の会座とは何を意味するのか等々、本当に収穫・学びの多い研修会でした。

特に、「文武両道」を「温故知新」するに関しては、ライフワークである「速読」と密接な関係がありますので、今後さらに具体化し、皆様に理解できる形にして、世間に紹介していくつもりです。

今回の研修については、あらためて、胡欽定先生、石井事務局長等、関係者の皆様方のご尽力に感謝申し上げます。

老子会の『人』山本弘成さん

山本さんは　大阪生まれの大阪育ち。大学では法学部に在籍し法学を専攻、現在は法科大学院をめざし勉強中です。好きな食べ物は「激辛麻婆豆腐」翌日の「お腹いた」もなんのその。最近は自作ＰＣの作り方にも興味を持っています。

社会では、「ゆとり教育」が注目を集め、試行錯誤が続く時代に、小学校から中学、高校と多感な青春時代を過ごされました。

そんな中、小学校２年から中学校まで「極真空手」に挑戦。「新極真会大阪北部交流試合」で準優勝を勝ち取った経験もあります。全国大会にも出場、意気軒昂に状況しますが、惜しくも初戦敗退。東京観光を満喫したのも、懐かしい思い出となっています。

山本さんが在籍していた頃、「極真会」は「極真空手」と「新極真空手」に分かれることになり、シンボルである「マーク」が「極真」から「新極真」に変わるといった経験もされたそうで、小学生だった山本さんにとっては、良くわからない「不思議な経験」だったようです。「空手はとてもしんどく、大変だったけれど、母の応援のおかげで頑張りぬくことができた。」と仰っています。

高校は、茨城西高校に進学。お母様の母校でもあり、親子で同じ学び舎に金の思い出を刻まれました。日頃の勉強会でも、仲良くされている姿は、本当に羨ましい限りです。

また、同校の卒業生には、ナインティナインの岡村隆史さんと矢部浩之さんがいて、在学中も撮影で来校したそうです。大学に進学してからは「あまり勉強せずに過ごしていた。」との事ですが、「将来のことを考えると、しっかり勉強しなければ。」と一念発起、「法科大学院」進学をめざし猛勉強中です。

将来が楽しみな山本さん。見事「合格」の栄冠を勝ち取られるよう、みんなで応援して参りたいと思います。

＜老子会の皆さんへ＞

老子会の皆様には、いつもお世話になり有難うございます。毎月の勉強会、高知研修など、いつも楽しく勉強させてもらっています。最近面白かった本に「君たちはどう生きるか」があります。主人公のコペル君を中心として、「ものの見方」を考えさせられる作品でした。輩者ですが、これからも頑張って老子会の皆様、胡先生に感謝をし、真剣に勉強していきたいと思います。指導いただけますようにお願い申し上げます。

（山本　弘成）

5月度「老子会」のご報告

老子会の皆様には、いつもご協力頂き誠にありがとうございます。

5月度の老子会は、15時から甲南大学で25名の出席の中、「老子漫画」第1話を読合わせした後、感想を述べあいました。胡金定先生の講義は「リーダーの生き方は力の論理で物事を解決しない。『不争の徳』を身につけることが重要」など示唆に富んだ内容を学び合いました。交流会は久しぶりに「とらの穴」で大いに盛り上がりました。

6月度は、ギターリストの永井進治氏を迎え甲南大学で開催となります。

ギターの魅力をたっぷり楽しんでいただきます。会員の皆様にはご多忙とは存じますが何卒よろしくお願い申し上げます。初夏の蒸し暑さの中、ご自愛の上ご活躍ください。

（石井政　事務局長）

7月度「老子会」のご案内

老子会

〒658-8502
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

電話: 078(435)2353
FAX: 078(435)2545
E-mail　kokintei@center.konan-u.ac.jp